

今年度のツキノワグマの出没数について

財団法人 尾瀬保護財団
研究員 橋本幸彦（農学博士）

目撃件数は2006年10月18日現在で152件に上っておりますが、これは非常に偏りのある数値で、単純に例年と比較することはできません。

今年度は7月中旬から8月下旬にかけて親離れしたばかりと見られる幼獣2頭が、非常に近距離で頻繁に姿を見せていました。このような子グマは体が小さく、人間に対する殺傷能力も低いのですが、かわいいため、入山者が餌をあたえてしまう可能性がありました。もし餌を与えてしまったら、人慣れがさらに進行し、将来、体が大きくなっても入山者や山小屋に平気で近づくようになり、人身事故が起こる可能性があります。

このため山の鼻ビジターセンターや財団事務局職員による巡回を2～数時間おきに実施し、人間を恐れるようにするために、追い払い等を実施してきました。この巡視中にツキノワグマが目撃され、入山者が目撃したのと同様に目撃記録として記載しています。その結果、このような大きな数字になったのです。

9月中旬以降、目撃件数は減少しており、例年並みになってきています。むしろ尾瀬では秋の主食であるブナやミズナラが凶作のため、クマが離れていくと予測されます。したがって、クマに対する通常の注意は勿論必要ですが、入山者に対して特別に注意報を出したり、警戒を呼びかけるような状況ではありません。